

# 令和元年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	新奇性の高い鉢花向け八重咲きりんどう「いわてDfG PB-1号」の育成		
[要約] 「いわてDfG PB-1号」は、りんどうの需要拡大を目的に育成した栄養繁殖性の鉢花向け青色品種であり、側枝の発生数や総花蕾数が多く、最大の特長は八重咲きである。					
キーワード	りんどう	八重咲き	鉢花	園芸技術研究部 花き研究室	

## 1 背景とねらい

現存のりんどうでは、切り花は仏花、鉢花は敬老の日のギフトと需要のイメージが定着している。本県の強みであるりんどう生産の振興のためには、バラやカーネーションなどの花き類と同様にりんどうも多様な用途で使用されるよう需要を拡大し、その消費量をさらに増加させる必要がある。

そこで、本研究では、新奇性の高い八重咲き形質を有する品種育成を目的に交配、選抜を実施した結果、「いわてDfG PB-1号」が有望と認められたので、その特性を紹介する。

## 2 成果の内容

### (1) 来歴及び育成経過

八重咲きりんどう「Df」と育成系統である「Wzc-2」の交配後代である「15-223」を平成28年に集団で交雑し、得られた実生の幼苗を（公財）岩手生物工学研究センターにおいてDNAマーカーにより（参考資料1）、八重咲き形質を示す幼苗の選抜を行った。この選抜集団を用い、平成29年～令和元年にかけて特性調査を行い、「いわてDfG PB-1号」を選抜し、育成完了とした。

### (2) 特性の概要

- ア 花：花形は雄ずいの花弁化による八重咲きであり（図1）、自家受粉しないことから花持ちが良い（観察）。また、花弁が外反転することから、八重咲きが際立つ（図1、2）。
- イ 花色：花冠の内面上部が明青紫、外面が紫白である（表1）。
- ウ 開花期：育成地（北上市）において、耕種概要のとおり栽培すると、9月3半月からの開花となる（表1）。
- エ 草姿：鉢物として仕立てた草丈は20cm程度となる。葉は狭披針形、茎径が1.2mm程度と細い（図2、表1）。
- オ 側枝数：摘心後の側枝の発生が良く、一次側枝数が7本程度、二次以上の側枝数が60本程度発生する（表1）。
- カ 花蕾数：側枝の頂点に1～2個程度の花蕾が着生し、1株当たりの花蕾数は70個以上となる（表1）。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 生産は、挿し木苗を利用し、挿し木は天挿しとする。
- (2) 花蕾等の重みによる枝の折れを防ぐためリングをつける。
- (3) 朝夕の弱光や低温条件下、または室内において、花弁が閉じにくい傾向がある（観察）。
- (4) 平成29年～令和元年の慣行防除管理下において、問題となる病害虫の発生は無いが、ウイルス感染を防ぐためアブラムシ類やアザミウマ類の防除に努める。
- (5) 栽培管理に関しては、「いわてDfG PB-1号」栽培マニュアル（仮称、令和元年度作成予定）を参照。

## 4 成果の活用方法等

### (1) 適用地帯又は対象者等

県内鉢花りんどう生産者

### (2) 期待する活用効果

青色鉢花りんどうの出荷量増加

普及見込み生産量10,000鉢/年（苗供給開始5年後の生産量）

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(H30-06) 産地を強化するりんどうの品種育成 [H28～R5/独法等委託]

外部資金課題名：新規育種技術を活用した需要拡大のためのりんどう品種の開発（イノベーション創出強化研究推進事業）

## 6 研究担当者

小澤 傑、内藤 善美

## 7 参考資料・文献

Tasaki, K. et al. (2017) Development of molecular markers for breeding of double flowers in Japanese gentian. Molecular Breeding 37:33

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

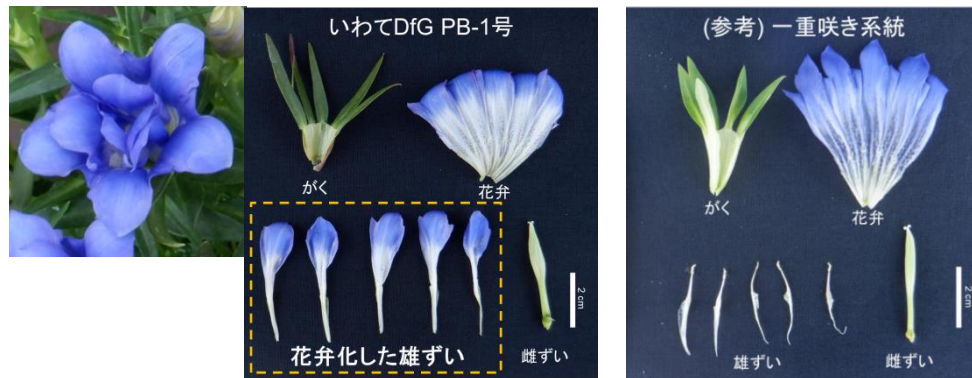


図1 「いわてDfG PB-1号」における花型の特徴

表1 「いわてDfG PB-1号」の形態的特性(1本植 10.5cm 鉢仕立て)

花冠内面上部	花冠外面上部	花冠の長さ (mm)	花頭部の直径 (mm)	花冠先端の直径 (mm)
明青紫 VIOLET-BLUE 96C <sup>1)</sup>	紫白 VIOLET-BLUE 97D <sup>1)</sup>	38.3	13.2	34.5
開花期 <sup>2)</sup>	草丈 (cm)	葉の長さ (cm)	葉の幅 (cm)	葉の形 <sup>3)</sup>
9・3半旬	21.3	4.7	0.9	狭披針形
茎径 (mm)	一次側枝数 <sup>4)</sup>	二次以上の側枝数 <sup>5)</sup>	花蕾数	
1.2	7.1	63.4	78.9	

1) RHS カラーチャートの色票番号

3) 農林水産植物種類別審査基準「リンドウ属」によって識別

4) 摘心した主茎から発生した側枝数

2) 株で最初に開花が観察された時期

(約4半旬後に5分咲き程度となる)

5) 二次以上の側枝の総数



図2 「いわてDfG PB-1号」の草姿 (3本植 12cm 鉢仕立て)

### 耕種概要

- 農業研究センター温室内管理(北上市)
- 採穂用親株の管理:
  - ・ H30年12月から5°Cで加温
  - ・ H31年2月から10°Cで加温
- 挿し木苗による栽培管理:
  - ・ 128穴セルトレイへ天挿しによる挿し木(3月中旬)
  - ・ 10.5cm、または12cm 鉢に鉢上げ(5月中旬)
  - ・ 鉢上げ後1週間を目安に5節残して1回目の摘心(5月下旬)
  - ・ 1か月後に2回目の摘心(6月下旬)
- 培養土:
  - ・ 挿し木「システムソイル 101 リンドウ用」
  - ・ 鉢上げ「三研ソイルリンドウ用培土」
- 肥培管理(7月下旬～開花期):
  - ・ 置肥錠剤肥料(N,P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>,K<sub>2</sub>O各12%、3.0g/鉢)
  - ・ 1週間おきに液肥(N,P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>,K<sub>2</sub>O各20%、N成分200ppm)